

4 特集

未来の研究医を育てる

12

医療研究 ★ 最前線 未来医療を拓く

東京医科歯科大学を「核酸医薬」
における研究の中心拠点へ

大学院医歯学総合研究科 脳神経病態学分野（神経内科）
横田隆徳教授

運動中の突然死に関与する
遺伝子の特定に成功

難治疾患研究所 生体情報薬理学分野
古川哲史教授

潰瘍性大腸炎の日本初の新治療薬を
オールジャパン体制で開発

大学院医歯学総合研究科 消化器病態学分野（消化器内科）
渡辺 守教授

18

医科歯科大生 file
「自ら問い、自ら導く学生たち」

歯学部歯学科 5年
石通秀行さん

19

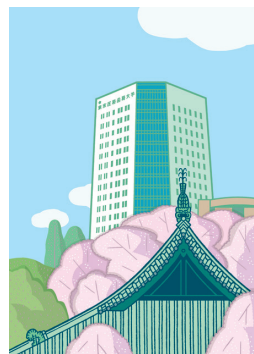
卒業生の今
「活躍する医科歯科人」
東京大学大学院薬学系研究科
細胞情報学教室 教授
一條秀憲氏

20

医科歯科百景
鈴木章夫記念講堂

22

Campus Information



今号の表紙

本学のある湯島は、近代教育発祥の地とされています。手前の建物は江戸幕府直轄の学校、昌平坂学問所の起源である湯島聖堂の大成殿です。屋上の鬼状頭（きざんとう）・鬼龍子（きりゅうし）と呼ばれる聖獣が建物を守っています。

東京医科歯科大学 学長
吉澤靖之
Yasuyuki Yoshizawa



研究とは生きる知恵

古来、人類にとって生きることには大きな意味では研究の連続だといえます。

自然に存在する木の実や捕獲した生き物を食べる狩猟採集時代は、如何にしてたくさん得るかが研究テーマでした。

農耕牧畜時代は、新しい手段である灌漑により同一地方で生活が可能となり、そして犁（すき）の発明により動物の力を利用する農耕が可能となりました。農産物の余剰により新しい社会組織が形成されたのです。

次は、新しく戦車を作った部族が他を支配するようになり、引き続き新しい発明として、青銅の武器から鉄の武器使用へと変遷し、さらに広範囲に他を征圧するなど歴史は動いていくこととなります。その後の歴史も同様です。

このように人間の生活は研究の連続で新しい物質、製品を生産しながら生き延びてきたのです。

時代は変わり、研究成果が自己ではなく世界の人々の幸福に寄与することが可能なきを迎えています。

さて、もっと狭い範囲の医療における研究医を考えると、①基礎医学に従事する研究医（basic scientist）、②臨床を続けながら基礎的研究を続ける研究医（physician scientist）、

③臨床医として臨床研究を続ける研究医（academic physician）があげられます。

以前は、卒業後直ちに基礎研究生活に入り、基礎研究に人生を賭ける研究医がいました。しかし、近年では、入学時に基礎研究医を目指していても、学部教育中に臨床医学に興味変える学生が多く見られます。新しい臨床研修制度が発足してから、さらにその傾向が大きいいえるでしょう。

学部教育中に学生が臨床指向になるのは、基礎系を教える授業内容が臨場感を持って研究の楽しさを伝えることができるということ、さらには国家試験などを考えると興味ある研究の最近の知見を十分に教えることが難しいなどといった現状があります。

本学には、そういった現状を打破するための「プロジェクトセメスター」「研究実践プログラム」「研究者養成コース」「DDS-PhD（歯学研究早期育成）」「MD-PhD（医学研究早期育成）コース」などが準備されています。ただ、後二者はまだ十分に活用されているとは言えないようです。

将来の研究医に対しては、生活も含めた環境整備が必要です。研究を

進める中で、結果が見えてきたときのワクワク感は生きていることを実感するときでもあります。学生には是非この体験をしてほしいと考えています。

臨床に従事しながら、基礎研究の論文を発表することは、臨床と基礎研究とを両立しやすい分野の大学教員にとっては義務であるといえるでしょう。他方、臨床が忙しくて基礎研究に時間を割くことが難しい分野の大学教員にとっては、臨床研究で論文発表を行うのが最低限必要であるといえます。

東京医科歯科大学は、physician scientist, academic physician, basic scientistを養成する機関です。臨床医を目指すとしても、科学的視点を持たずして、漫然と日々の臨床を進め、その結果医療問題を起こしてしまような人材の育成は目指していません。

本学の卒業生は、全員が常日頃から課題を見つけて自ら解決する、医療スタッフであると確信しています。

前号に引き続き学長が身に着けているバッジとネクタイは、本学オリジナル。大学基金への寄附者へ贈呈します。本誌 P22のNewsもご覧ください。